

令和4年度富山県スポーツ推進委員研修会 報告書

- 1 期 日 令和4年12月11日（日）9：00～12：00
2 会 場 富山県西部体育センター
3 参加者 161名（県内スポーツ推進委員・市町村生涯スポーツ担当者）

4 開会式

- (1) 開会の挨拶 富山県スポーツ推進委員協議会 副会長 金森 一郎
(2) 歓迎の言葉 砺波市教育委員会 教育長 白江 勉
(3) 講師紹介 (株)オー・エル・エム・デジタル所属 宮島 徹也 氏
NPO 法人 SEIBU スポーツクラブ 理事長 室永 美穂 氏

5 表彰式

- (1) 中ブロックスポーツ推進委員連絡協議会表彰（4名）
十丸 陽好（氷見） 村中 幸志（入善） 西野 忠志（富山） 松木 秀幸（富山）
(2) 北陸地区スポーツ推進委員協議会表彰（8名）
柴草 孝至（富山） 松本 健悦（小矢部） 島津 豊（魚津） 赤壁 早苗（射水）
村上 撤子（入善） 室山眞喜子（滑川） 駒方 英一（高岡） 利田 敏夫（富山）
(3) 富山県スポーツ功労者表彰（勤続10年）（6名）
酒井 和雄（富山） 盛田 勝（富山） 金山 芳男（富山） 松森 朋恵（富山）
杉本 信博（滑川） 滝林久美子（黒部）

6 講演

演題「車いすバスケットボールとの出会いと東京2020パラリンピック」

講師 宮島 徹也 氏（株式会社オー・エル・エム・デジタル 所属）

車いすバスケットボールとの出会い

小学生からバスケットボールを始めた。小学5年生のミニバスケットボールの大会後に、車いすバスケットボールの試合を観戦する機会があり、「すごい」と感じたが、「自分には関係のないものだ」と思っていた。中学生の時に靭帯断裂の大けがを負い、手術を受けるも左足を切断。その後、車いすバスケットボールを題材にした漫画「リアル」に出会い、車いすバスケットボールの魅力を感じ始めたとき、車いすバスケットボールをしている先輩から声を掛けられ、車いすバスケットボールを始めることとなる。

車いすバスケットボールのルール

基本的にはバスケットボールと同じだが、ダブルドリブル可。ボールを保持したまま車いすを3回操作するとトラベリングとなる。選手の障がいによってクラス分けされ、試合に出場する5人の選手の合計が14点以下になるように選手選考しなければならない。

東京2020パラリンピック

選手村はマンションとなっており、誰でも出入りすることはできない。選手村の部屋のベットは段ボールベット。移動は自動運転バスを利用。選手村にはオリンピックに出場した選手（八村選手や馬場選手）のサインがあり、モチベーションが高まった。また、ボランティアの応援が支えになった。

自国開催のパラリンピックに「絶対に出場したい」という思いがあり、シュートが決まった時の地響きが上がるほどの歓声を期待していたが、新型コロナウイルス感染症対策として無観客で

の開催となったため、会場はとても静かだった。しかしその分、多くのメディアが放送してくれたことで、魅力を伝える機会ともなった。

大会を通して、若手の選手の成長が感じられた。選手12名とスタッフ5名。いろいろな個性をもった選手が集まったチーム。意見がぶつかることもあったが、チームのスローガンである「一心」を大切に、切磋琢磨できた。最高のメンバーであり、宝物である。

東京2020パラリンピックに向けて、家族との時間を犠牲にしてきた。参観日にも一度も行けず、休日も不在。息子からは「パパの子供じゃなかったらよかった」と言われたこともあるが、その言葉をきっかけに「息子にメダルをかけてあげたい」という大義ができた。自宅に帰り、息子にメダルをかけたとき、大きな達成感を感じた。

車いすバスケットボールについて

車いすバスケットボールは障がいのある人とない人が一緒にプレーすることができるスポーツである。パラスポーツの楽しさを知ってもらいたい。

7 実技研修

種目「車いすバスケットボール体験」

講師 宮島 徹也 氏 (株式会社オー・エル・エム・デジタル 所属)

簡単な車いすの操作説明後、おにごっこなどの遊びを通して、参加者が車いすに慣れていく様子が見られた。車いすは軽量で滑らかに進むが、バック操作などが難しく、まっすぐに進まないようだった。試合では、なかなかシュートが決まらなかったり、車いすがぶつかり合うなど苦労することもあった

が、段々とスピードが出るようになり、ボール回しもスムーズになっていった。参加者からは「脚の操作ができない分、体幹の強さが必要になる」という声も聞かれた。宮島氏のサポートがあったことで、初心者も十分に試合を楽しむことができていた。パラリンピアンとのスピードや技術も肌で感じられた、貴重な体験となった。



種目「スローエアロビック体験」

講師 室永 美穂 氏 (NPO 法人 SEIBU スポーツクラブ 理事長)

ハードな動きはなく、簡単にできる3つの基本動作を中心に、誰もが気軽にできる運動だった。講師からの一方的なレッスン形式ではなく、参加者同士でプログラムを創作する時間があり、他市町村のスポーツ推進委員との交流を図る機会となった。どのグループも様々な動きをうまく組み合わせ、グループ独自の動きができしており、楽しそうな様子うかがえた。



8 閉会式

(1) 閉会の挨拶 富山県スポーツ推進委員協議会 副会長 赤池 伸彦